CASBEE®熊本《新築》【 性能表示 】

■ 建物概要

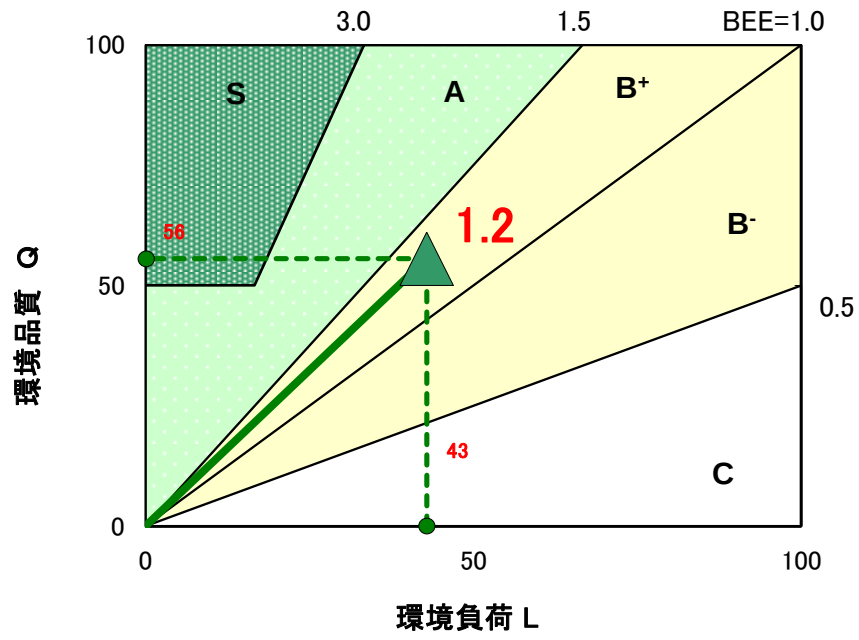
建物名称	(仮称)ムライチGardenTerrace邸新築	階数	地上4F
建設地	熊本県熊本市中央区新大江1丁目1	構造	S造
用途地域	第2種中高層住居専用地域、準防火	平均居住人員	0 人
気候区分	6地域	年間使用時間	0 時間/年
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年7月　予定	評価の実施日	2017年11月8日
敷地面積	1,465 ㎡	作成者	椋本充俊
建築面積	654 ㎡	確認日	
延床面積	2,228 ㎡	確認者	

■ 外観

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

★★★☆☆



BEE = 1.2

■BEE(環境効率) = Q(環境品質) / L(環境負荷)

■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	ー
B^+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	ー
B^-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	ー
C	★	劣る	0.5未満	ー

■ライフサイクルCO_2 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO_2排出性能(ランク表示)

☆★★★★

排出率

101%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

評価点

79

	評価点
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	89.7
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	78.7
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	75.0
【重点事項4】 循環型社会の実現	63.7

■熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®-建築(新築)　評価結果

■使用評価マニュアル：**CASBEE-建築(新築)2016年版**　使用評価ソフト：**CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)**

1-1 建物概要

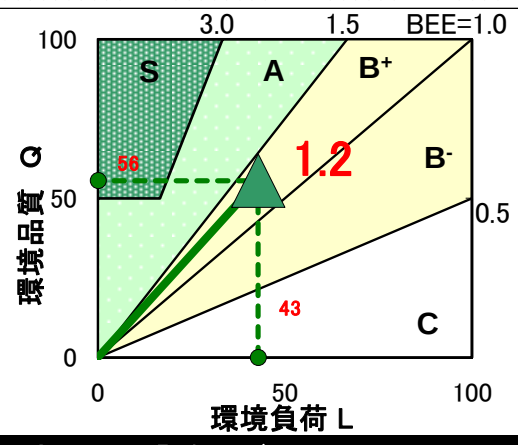
建物名称	(仮称)ムライチGardenTerrace邸新築	階数	地上4F
建設地	熊本県熊本市中央区新大江1丁目1	構造	S造
用途地域	第2種中高層住居専用地域、準防火	平均居住人員	84 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年7月　予定	評価の実施日	2017年11月8日
敷地面積	1,465 ㎡	作成者	椋本充俊
建築面積	654 ㎡	確認日	
延床面積	2,228 ㎡	確認者	

1-2 外観

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE =1.2

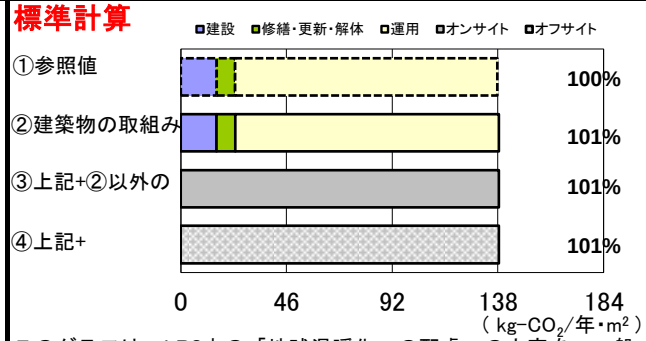
S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B-: ★★ C: ★



2-2 ライフサイクルCO_2(温暖化影響チャート)

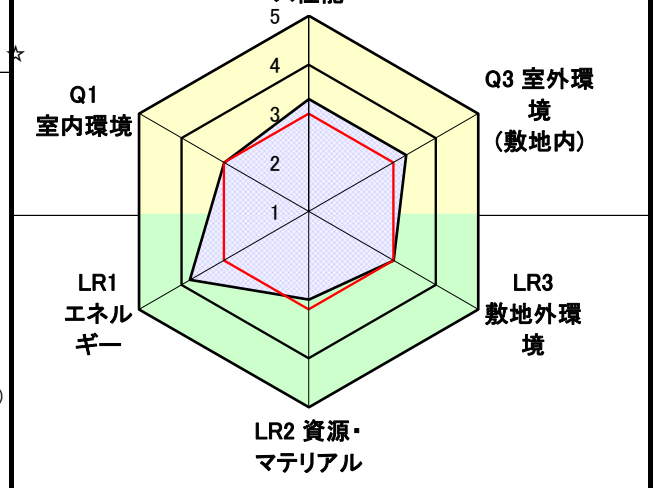
30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆

標準計算



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

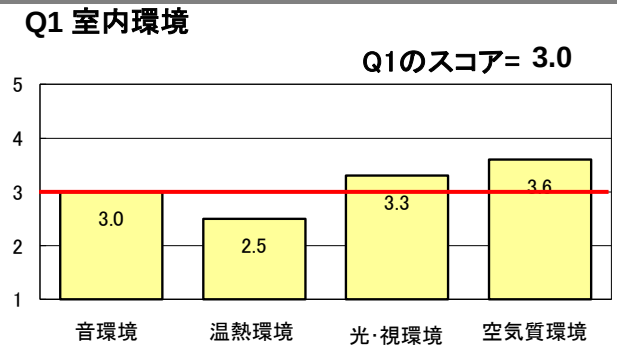
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



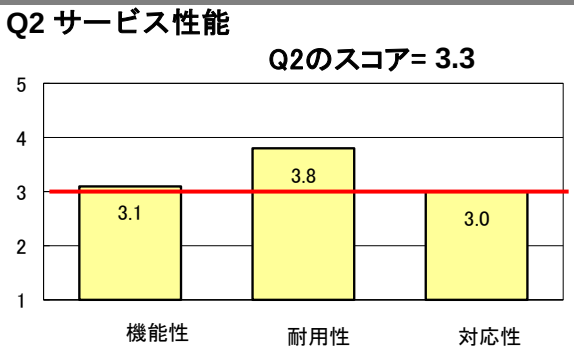
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質　　Q のスコア= 3.2

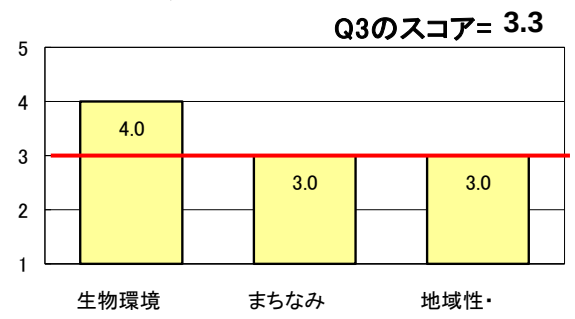
Q1 室内環境　Q1のスコア= 3.0



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 3.3

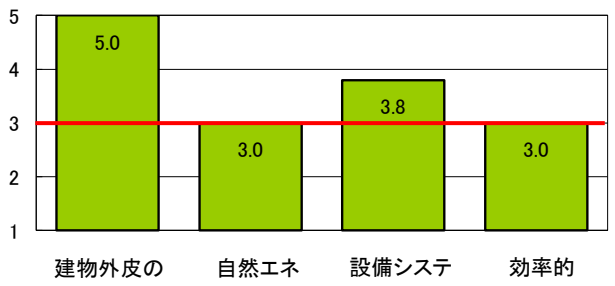


Q3 室外環境（敷地内）　Q3のスコア= 3.3

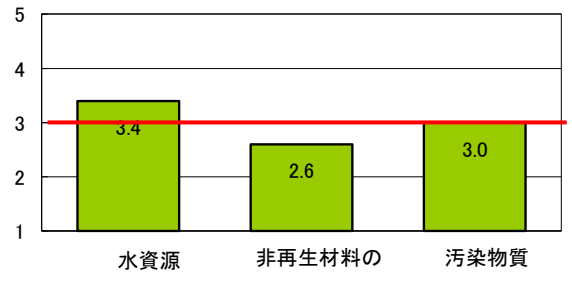


LR 環境負荷低減性　　LR のスコア= 3.2

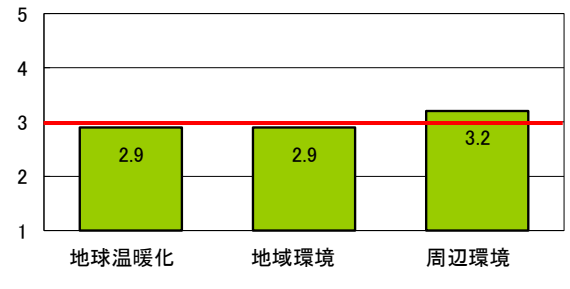
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 3.8



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 2.8



LR3 敷地外環境　LR3のスコア=3.0



3 設計上の配慮事項

重点事項総合評価

評価点 = 79

重点事項1:温室効果ガス排出量削減の推進

評価点 = 89.7

重点事項2:安全安心で暮らしやすい社会の実現

評価点 =78.7

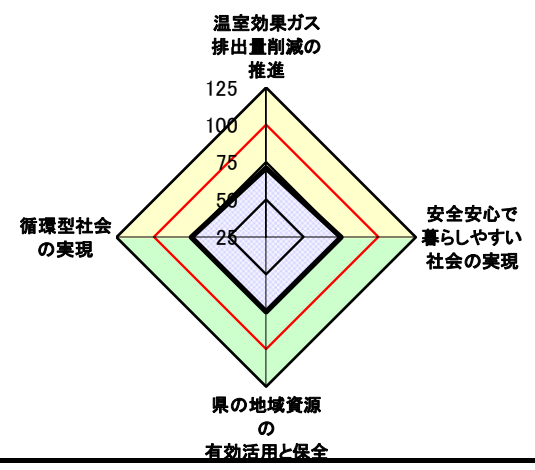
重点事項3:県の地域資源の有効活用と保全

評価点 = 75.0

重点事項4:循環型社会の実現

評価点 =63.7

重点事項の評価(レーダーチャート)



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO_2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO_2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版

(仮称)ムライチGardenTerrace邸新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入　■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

スコアシート　実施設計段階

配慮項目			環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質								**3.2**
Q1 室内環境					**0.40**		-	**3.0**
1 音環境				**3.0**	0.15	**3.0**	1.00	**3.0**
1.1 室内騒音レベル				**3.0**	0.50	**3.0**	0.50	
1.2 遮音				**3.0**	0.50	**3.0**	0.50	
	1	開口部遮音性能		3.0	1.00	3.0	0.30	
	2	界壁遮音性能		-	-	3.0	0.30	
	3	界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	3.0	0.20	
	4	界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音				-	-	-	-	
2 温熱環境				**2.0**	0.35	**2.7**	1.00	**2.5**
2.1 室温制御				**3.0**	0.50	**3.7**	0.50	
	1	室温		3.0	0.63	3.0	0.63	
	2	外皮性能	住居部:外皮平均熱貫流率0.71(W/㎡・K)	3.0	0.38	5.0	0.38	
	3	ゾーン別制御性		-	-	-	-	
2.2 湿度制御				**1.0**	0.20	**3.0**	0.20	
2.3 空調方式				1.0	0.30	1.0	0.30	
3 光・視環境				**3.8**	0.25	**3.1**	1.00	**3.3**
3.1 昼光利用				**5.0**	0.43	**2.5**	0.30	
	1	昼光率	共用部:昼光率5.7%	5.0	0.60	2.0	0.50	
	2	方位別開口		-	-	3.0	0.30	
	3	昼光利用設備	共用部:トップライトの採用	5.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策				**-**	-	**4.0**	0.30	
	1	昼光制御	住居部:カーテン・庇の採用	-	-	**4.0**	1.00	
3.3 照度				**3.0**	0.21	**3.0**	0.15	
3.4 照明制御				**3.0**	0.36	**3.0**	0.25	
4 空気質環境				**3.6**	0.25	**3.6**	1.00	**3.6**
4.1 発生源対策				**4.0**	0.60	**4.0**	0.63	
	1	化学汚染物質	F☆☆☆☆の採用	4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気				**3.0**	0.40	**3.0**	0.38	
	1	換気量		3.0	0.50	3.0	0.33	
	2	自然換気性能		-	-	3.0	0.33	
	3	取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理				-	-	-	-	
	1	CO_2の監視		-	-	-	-	
	2	喫煙の制御		-	-	-	-	
Q2 サービス性能				–	**0.30**	-	-	**3.3**
1 機能性				**2.8**	0.40	**3.2**	1.00	**3.1**
1.1 機能性・使いやすさ				**1.0**	0.40	**4.0**	0.60	
	1	広さ・収納性		-	-	-	-	
	2	高度情報通信設備対応	100Mbit対応配線の採用	-	-	4.0	1.00	
	3	バリアフリー計画		1.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性				**5.0**	0.30	**2.0**	0.40	
	1	広さ感・景観		-	-	3.0	0.50	
	2	リフレッシュスペース		-	-	-	-	
	3	内装計画	インテリアパース、照明計画で事前検証	5.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理				**3.0**	0.30	-	-	
	1	維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
	2	維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性				**3.8**	0.30	-	-	**3.8**
2.1 耐震・免震・制震・制振				**5.0**	0.50	-	-	
	1	耐震性(建物のこわれにくさ)	制振装置の採用	5.0	0.80	-	-	
	2	免震・制震・制振性能	制振装置の採用	5.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				**2.5**	0.30	-	-	
	1	躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
	2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-	
	3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		2.0	0.10	-	-	
	4	空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
	5	空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
	6	主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性				**3.0**	0.20	-	-	
	1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
	3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.0	0.30	3.1	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり			-	-	3.2	0.50	
	1	階高のゆとり	階高：2.9m	-	4.0	0.60	
	2	空間の形状・自由さ		-	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	1.00	-	-	
	1	空調配管の更新性	3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性	3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性	3.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性	3.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性	3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境（敷地内）			－	0.30	-	-	3.3
1 生物環境の保全と創出		生態系に配慮し、「在来種」を多用	4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-		-	3.2
LR1 エネルギー			－	0.40	-	-	3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制		住居部：外皮平均熱貫流率0.71(W/㎡・K)	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.92	3.8	0.50	-	-	3.8
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
	4.1	モニタリング	-	-	-	-	
	4.2	運用管理体制	-	-	-	-	
集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング	3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制	3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			－	0.30	-	-	2.8
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		節水水栓、節水型便器の採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無	3.0	0.70	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.6	0.60	-	-	2.6
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		－	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		－	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		外装材+木製内壁枠+仕上材	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
	1	消火剤	-	-	-	-	
	2	発泡剤（断熱材等）	3.0	0.50	-	-	
	3	冷媒	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			－	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮			2.9	0.33	-	-	2.9
2 地域環境への配慮			2.9	0.33	-	-	2.9
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減	3.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制	3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制	3.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制	2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
	1	騒音	3.0	1.00	-	-	
	2	振動	-	-	-	-	
	3	悪臭	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制	3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制	1.0	-	-		
	3	日照阻害の抑制	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害に配慮、広告物照明無し	5.0	0.70	-	-
	2	昼光の建物外壁による反射光（グレア）への対策		3.0	0.30	-	-

CASBEE® 熊本《新築》【 配慮事項 】

4 設計上の配慮事項

総合

●屋内の中廊下型共同住宅とし、1階にロビーラウンジを設け入居者の交流を図れる設計とした。
●３方向道路で圧迫感を抑えるため、沿道に緑化を積極的に行った。

Q1 室内環境

●各住戸については、省エネ基準を満たす断熱仕様、高断熱ペアガラスの採用による冷暖房負荷の軽減を図った。

Q2 サービス性能

●地盤調査に基づく安全な基礎方式と形状の検討を行った。
●壁体内通気及び断熱区画、防水シート施工による躯体の高耐久化を行った。

Q3 室外環境（敷地内）

●周辺建物との調和を図り、建物高さや色合いの配慮を行った。
●共用玄関にオートロックを採用し、防犯性を高めた。

LR1 エネルギー

●エコキュート採用による省エネルギー対策を行った。
●照明は、基本的に長寿命な製品であるLEDを採用した。

LR2 資源・マテリアル

●施工現場で生じた産廃は、生産工場へ回収・分別を行う。

LR3 敷地外環境

●沿道に緑化を積極的に行い、園芸品種・外来種のみを多用せず、生態系に配慮し、地域の生物にとって活用可能性の高い「在来種」を積極的に選定した。

その他

●特に無し。

熊本県重点評価結果スコアシート　　実施設計段階

建物名称	*(仮称)ムライチGardenTerrace邸新築工事*

■評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)　　■使用評価マニュアル：CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		79
重点事項 / 重点項目（配慮項目）		スコア	重み係数	評価点	重点事項重み係数	評価配点
① 温室効果ガス排出量削減の推進				89.7	0.40	35.88
Q1-2.1.2	外皮性能	*3.0*	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	*5.0*	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	*4.0*	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	*5.0*	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	*3.0*	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	*3.8*	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	*2.0*	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	*3.0*	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				78.7	0.20	15.74
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	*1.0*	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	*5.0*	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	*4.0*	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	*3.0*	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	*3.0*	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				75	0.20	15.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	*3.0*	0.20			
LR2-1.1	節水	*4.0*	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	*3.0*	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	*2.0*	0.30			
④ 循環型社会の実現				63.7	0.20	12.74
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	*2.5*	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	*3.0*	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	*3.0*	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	*3.0*	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	*1.0*	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点　＝　（各重点事項の評価点×各重点事項の重み係数）の総和

※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項（①～④の項目）

評価点　＝　（各重点項目のスコア×各重点項目の重み係数）の総和×(5/4)×20

※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4)×20 ： スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数